



施設だより

ひこね市文化プラザ ☎26-8601 FAX 26-8602
2月の休館日:4月・12月・18月・25月

11日(月祝) 17:00~
小椋佳「歌談の会」
 指定 1階席:4,500円
 2階席:3,500円
 【好評発売中】



2日(日) 13:30~
お楽しみコンサート「ひなまつり」
 ☆内容:フルート・琴(十七弦)・ピアノ・語りで綴る滋賀の伝説「まんまる月夜の竹生島」。会場いっぱい広がるファンタジックな音楽とお話の世界をお楽しみに!
 ☆出演:フルート・篠笛/井伊亮子
 箏・十七弦箏・三味線/麻植美弥子 ほか
 【鑑賞無料】

15日(土) 18:30~
渡辺貞夫クインテット 2008
 指定 1階席:大人5,000円
 2階席:大人4,000円
 ※18歳以下は1・2階席とも1,000円
 【好評発売中】



20日(木祝) 15:00~
エコーメモリアル・チェンバー オークストラ 演奏会
 自由 大人2,000円 18歳以下1,000円
 (当日:各500円増)
 【好評発売中】

ひこね市文化プラザ友の会 平成20年度 会員を募集!!

ミュージカル、クラシック、ニューミュージック、講座など、ひこね市文化プラザで開催される多彩な内容の公演をお得に鑑賞できます。ぜひ、この機会にご入会ください!!

年会費 2,000円(入会金無料)

- 特典 ①催し物案内チラシと情報誌を毎月お届け
 ②主催公演チケットの優先予約(1公演4枚まで)
 ※優先予約用座席から、座席を選べます。
 ③文化プラザで販売するチケットが1割引(1公演2枚まで)

※公演によっては取扱いできない場合があります。
入会方法 専用振込用紙で、文化プラザチケットセンター、滋賀銀行、滋賀中央信用金庫、郵便局でお申し込みください。(専用振込用紙は、文化プラザチケットセンター、市役所、支所・各出張所、市民会館、みずほ文化センター、各地区公民館、市内の滋賀銀行・滋賀中央信用金庫、郵便局にあります)

- マーク: 託児サービスがあります。(要予約)
 ※公演日の1週間前までにご予約ください。
 マーク: 公演終了後、彦根駅行き・南彦根駅行きの臨時バスの便があります。(有料)

チケット・入会のお申し込み、お問い合わせは
チケットセンター ☎27-5200 (9:00~19:00)

彦根城博物館 ☎22-6100 FAX 22-6520
2月の休館日はありません。
 なお、2月5日(火)~同7日(休)は展示替えのため、展示室を一部閉室しています。

開館時間 8:30~17:00(入館は16:30まで)

~2月5日(火)
「多賀大社の名宝」
 「延命長寿の神さま」として、篤い信仰が寄せられてきた多賀大社。その社宝の中から、優れた美術工芸品の数々を展示します。

2月8日(金)~3月11日(火)
「雛と雛道具」
 13代藩主井伊直弼の二女・弥千代の雛飾りを一挙公開。婚礼調度さながらの、繊細で優美な道具の数々が見どころです。



▲弥千代の雛道具のうち 香道具

ギャラリートーク「雛と雛道具」
 2月9日(土) 14:00~15:00
 解説:本館学芸員 小井川 理(こいかわ りん)
 ※事前申し込みは不要です。当日館内講堂にお集まりください。

観覧料が必要です

ほんがとの出会 ー常設展示の名品ー

譜代大名筆頭・井伊家に伝えた大名道具を中心に、日本の美と歴史にせまります。「武器・武具」「能面・能装束」「茶道具」「湖東焼」「雅楽器」「調度」「絵画」「古文書」などの名品が次々と登場します。

2月8日(金)~3月11日(火)
小雲竜釜
 雲気をまとい、天に昇る竜をあらわした筒釜。近江国栗太郡出身の釜師辻与次郎の作と伝えられている。



2月6日(水)~3月10日(月)
琵琶 銘水竜
 江戸時代後期の文人画家・浦上玉堂(1745~1820)が所持していたと伝える琵琶。

市民会館舞台練習場 使用(運営)団体を募集します

登録資格 市内で活動する舞台芸術関係団体のうち、練習成果の発表を目的として、定期的な使用を希望する団体で、運営協議会を構成して、日程調整などの運営に携わることができる団体(ただし、営利目的の団体などは使用できません)

登録方法 団教育委員会生涯学習課(市民会館1階)で説明を受け、要綱に従って団体登録申請書を同課に提出してください。審査後、登録を許可する団体に登録証を発行し、舞台練習場の使用や運営をしていただきます。

登録申請の締切 2月15日(金)
問い合わせ先 同課 ☎24-7971、FAX22-3015



▲弥千代の雛道具のうち洗面・化粧道具

二月。節分、そして立春を迎えると、暦の上ではもう春です。「春は名のみ」の寒さのなかにも、そこかしこに春の訪れを感じるようになり。博物館では、恒例のテーマ展「雛と雛道具」が始まり、13代藩主井伊直弼の娘・弥千代の婚礼の折に調えられた雛道具をはじめ、江戸時代から昭和にかけての雛飾りを展示します。細やかに作られた雛道具の数々は、それらを前に目を輝かせる持ち主の姿を彷彿とさせます。

雛祭りでは雛人形とともに飾られる雛道具は、平安時代の子もたちが親しんだ雛遊びの人形のための、小さな道具類から発展します。雛遊びはやがて、人形に機械を移して祓う3月3日の上巳の風習と結びついて、雛祭りの節句行事として定着します。雛道具は、地域の特色や時代ごとの生活文化も反映しながら、さまざまな種類が生

み出されていきました。

一方、子どもたちの成長の折々には、小さな調度を調べて祝い、無事な成長を願う儀礼が、平安時代から行われていました。

生後50日を迎えて行われる「五十日祝」では、重湯に餅を入れて子どもに含ませ、祝宴を設ける習わしがありました。儀式には、通常のものよりも小ぶりの皿や台、箸などが詠えられ、雛遊びの道具のようだったといえます(『紫式部日記』)。また、3・4歳ごろになると、子どもが初めて袴をつける「着袴」の行事が行われ、儀式に用いる鏡や脇息などの道具や部屋のしつらいは、すべて雛遊びのような、子ども用の小さなものを用意しました。それらの調度類は、時絵(漆塗りに金粉を蒔いて模様を表す技法)や、螺鈿(模様の形に切り出した貝の薄板を漆塗りに貼り付ける技法)の装飾を施した、繊細で美しいものでした(『栄花物語』ほか)。

遠く平安の昔から、子どもの健康やかな成長を祝い願う儀式の場

弥千代の雛道具は、彦根城博物館「テーマ展「雛と雛道具」(2月8日(金)~3月11日(火))で展示します。

現在、博物館に伝えられている弥千代の雛道具は85件。姫君が興入れに際して持参する婚礼調度に習い、実際の調度の3分の1から5分の1ほどの縮尺で、ミニチュアの諸道具が調えられています。直弼の親心を宿したこれらの雛道具は、毎年の雛の節句に飾り付けられたことでしょうか。テーマ展「雛と雛道具」では、それぞれの時代の子もたちとともに歩んだ小さな調度の数々をお楽しみください。(彦根城博物館学芸員 小井川理)

とまの玉手箱

博物館からのメッセージ

